

■ **お金が有っても不幸な人、**
お金が無くても幸せな人

修正： 2021.01.01

投稿： 2021.01.01



●お金があっても不幸な人、お金がなくても幸せな人①

子供のことを「ガキ」と言ったりしますが、
そもそもガキ(餓鬼)とは鬼を意味する言葉です。
なぜ子供のことを「鬼」と言うのか？

まず「餓鬼」とは、ものを貪欲に欲しがり、
例えそれを手に入れたとしても満足できず、
すぐさま別のものを欲しがるような、
何をやっても満足できない状態(の人)を指します。

そして子供とは、何でも欲しがるものであり、
もっと言うと、大人から与えてもらわなければ
生きていけない立場です。こうしたことから、
いつしか子供のことをガキと呼ぶようになったのです。

しかし、**大人の方が餓鬼**だと言えます。と言うのも、
子供以上に欲が深く、何でも欲しがっているからです。

財産、利権、地位、名誉、愛人、お菓子、などなど、
生きていれば、欲しいものが止め処なく目に入ります。
人間とは欲望に服を着せたようなものと言えましょう。

そして、骨身を削る思いで欲しいものを貪欲に求め、
どんなに成功を収め大金を手に入れたとしても、やがて飽きてしまい、
まだ手にしていないものを追いかけてやめます。

何を所有しても、所有できていないものばかりに目が行き、
どこまで求めても「**欲しい！欲しい！**」と**満足できない**、まさに**餓鬼**です。

特に、財産があっても欲しがる餓鬼のことを
「有財餓鬼(うざいがき)」と言います。昔、フジテレビの「トリビアの泉」で
「うざいがき、という四字熟語がある」と紹介されておりました。
反対に、財産がない餓鬼のことを「無財餓鬼(むざいがき)」と言います。

有財餓鬼であっても無財餓鬼であっても、
満たされず苦しんでいることに変わりありません。

ではどうすれば、このような餓鬼の状態から抜け出し、
現状に満足し、幸せを感じられるようになるのでしょうか。

(続)

//=====//

●お金があっても不幸な人、お金がなくても幸せな人②

「欲しい！欲しい！」と欲しがり、
仮にそれを手に入れたとしても満足することができず、
永遠と欲しがり続ける状態(の人)のことを餓鬼(ガキ)と言います。

こういう餓鬼な人に対しては、
幸せになりたいなら「**足るを知れ**」と説かれています。

人間、今あるものに対しては、**意識が薄れがち**です。
なぜなら、それは「**あって当たり前**」だからです。

親が助けてくれるのは当たり前、
毎日おいしい料理を食べられるのは当たり前、
疲れたときに布団でぐっすり眠れるのは当たり前、
会社から給料が振り込まれるのは当たり前、
自動車が動くのは当たり前、
子供が学校から帰ってくるのは当たり前、

と、日常を見渡せば、当たり前すぎて普段は意識しませんが、
「小さな幸せ」で満ち溢れていることに気づきます。

この「当たり前」を深く感じ、

「生きることは小さな幸せの連続だ！」と身に染みるようになれば、
餓鬼な状態から抜け出せるでしょう、という理屈です。

古代ギリシアのとある哲学者は、

早寝早起きに腹八分と自然の摂理に忠実に従って生活し、
金や名譽に無頓着で、友人は3~5人と質素な暮らしの中、
のんびりと時が経つのを楽しみながら生きていた記録があります。
彼は、幸せに生きるために、それで十分であることを知っていました。
(その哲学者の名前が出てこない…)

幸せも不幸せも心の向き一つ、

お金が有っても幸せになれない人がいる一方で、
お金が無くても幸せに生きていける人もいます。

(続)

//=====//

●お金があっても不幸な人、お金が無くても幸せな人③

「足るを知る」ことによって、

「欲しい → 手に入れた → 飽きた → 欲しい」

の悪循環から抜け出せる、という話でした。

ではどうやって「足るを知る」か、

ということについて、話を進めたいと思います。が、

人それぞれ「ビビッとくる方法」が微妙に違いますので、一概に

「〇〇な方法がよろしいでしょう！」と言うことができません。…。

と言うこともあり、「足るを知る」ための考え方を、
二つほど取り上げたいと思います(余白が足りないので…)。

**1. あって当たり前のものに対して、
もしそれが失われたらどうなるかと考える**
(背理法のような考え方です)

食べるものがあるって、着る服があるって、帰る家があるって、
手を差し伸べてくれる人がいて、助けてくれる家族がいて、
守るべきものがあるって、やるべきことがあるって、明日があります。

こうした「あって当たり前」のものが、
「もし無くなったら？」と考えてみます。すると、
何が自分の幸せか、自ずと見えてくるはずです。

**2. 常に最悪な未来を想定し、
それに対して現状はどうかと考える**
(ミニマックス法のような考え方です)

「不幸中の幸い」という言葉があるように、
見つけようと思えば、どんな不幸な出来事の中でもあっても、
現状が幸いに思えるような、より酷い可能性が見つかるものです。

失恋したとか、失業したとか、失明したとか、
生きていればショックなことは多々あるかもしれませんが、
それでも、それはまだ**最悪の結果ではない**はずですよ。

(続)

//=====//

●お金があっても不幸な人、お金がなくても幸せな人④

餓鬼(ガキ)をテーマに話を進めてまいりました。

車もある、家もある、親もいる、娘もいる、
仕事もある、信用もある、お金もある、ふとんもある、
現代の日本人は、何でも「あるある」な状態です。

にも関わらず「もっとも一つ」と求めるからこそ、
いつまで経っても満足できず、「欲しい欲しい」の
餓鬼な状態に陥ります。有財餓鬼です。

そうして「欲しい欲しい」と強く願えば願うほど、
「人から奪ってやれ」という発想に行き着きます。
お金が欲しい人は、相手を騙してでもお金を手に入れようとしますし、
名声が欲しい人は、人を蹴落としてでも名声を手に入れようとします。

しかし、そのように「隙あらば奪ってやれ」と思い巡らせながら
コミュニケーションしていれば、当然、相手に感じ取られてしまい、
逆に奪われるという「奪って奪われる」の状態に陥ります。
(「奪って奪われる」の原則)

だからこそ餓鬼同士はよく奪い合いをするのです。

やがて、今まで与えてくれていた人からも
何の支援もしてもらえなくなるでしょう。
与えてもらって当たり前の感覚の人に、
いったい誰が率先して与えるのでしょうか。

そういうこともあり、餓鬼とは、
年を取れば取るほど奪われ孤独になる人でもあります。

子供のうちは親が与え続けてくれるでしょう。
しかし、世間はあなたの母親ではありませんので、
大人になっても「くれくれ」では、誰からも相手にされません。

ガキは子供のうちに卒業しなければなりません。むしろ、
あなたが**与える立場**にならなければならないんですよ！

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)